

第13回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日 時	平成22年3月29日（火） 15時00分～17時17分
開催場所	横浜市庁舎 8階 802（8S）会議室
出席者 （敬称略）	有賀美代、石塚淳、岡田朋子、黒津貴聖、小宮山滋、坂田信子、富井亨、 中川泰雄、長倉真寿美、中野しずよ、中村好美、名和田是彦、平賀裕、森本佳樹、 山田美智子、山野上啓子
欠席者 （敬称略）	大木幸子、玉城嘉和
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	議事 （1）区計画及び市計画の策定・推進状況について （2）推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分 科会（ヒント集）について 報告 （1）推進の柱2「必要な人に的確に届く仕組みをつくる」「地域ケアプラザが担 うネットワークづくりのあり方検討会」の結果について （2）地域活動者のための個人情報の手引きについて （3）横浜市地域福祉保健計画（市社会福祉協議会）について その他
決定事項	1 議事（2）推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための 分科会（ヒント集）について、今後のスケジュールについて概ね了承され、ヒント集 作成作業を今後継続し、進捗状況を委員の皆様へ情報提供しつつ、次回第14回委員会 にて完成版を報告することになりました。
議 事	開 会 深川福祉保健課長 議 事 （1）区計画及び市計画の策定・推進状況について ・事務局説明【資料1参照】 （森本委員長）何かご質問やご意見があればお願いします。 （黒津委員）区計画の地区別計画について、地区単位というのは、今ご説明があったよう に、連合町内会の単位、あるいは地域ケアプラザの単位とおっしゃっていました。連 合町内会エリアが必ずしも地域ケアプラザエリアに統一しているわけではないと思 います。そのために、区によって地区別計画の単位をどこにするかということは分か れるということですか。 （深川課長）今回の地区別計画の策定に関して、各区で母体となるところをどこにするか ということが検討されていました。前から地域ケアプラザ単位でやられているところ は地域ケアプラザのエリアごとに、支えあい連絡会などの活動が充実していたところ はそこを母体にと、いろいろな検討がされていました。 ご指摘のように、地域ケアプラザのエリア、イコール連合町内会単位できれいに分 かれているところもあれば分かれていないところもあり、様々です。ですから、取組 の単位は区ごとに対応していただいて、連合町内会や地区社協という単位のほうが地 区の取組を推進しやすいだろうということで、16区が連合町内会もしくは地区社協の

単位で今、策定をしております。

2区だけが地域ケアプラザのいわゆる日常生活研究、中学校区のエリアで地域ケアプラザを核にして進めていこうということで、地区別計画を策定したというのが現状です。

(黒津委員) 私は港南区なのですが、港南区の場合も地区別計画としてまだすべての地域で策定されているわけではないと思います。大体7割くらいではないかと思います。ですから、これはこれからの議論でございましょうが、できるだけいろいろな地域で地区別計画を立てるような仕組みにしなければならないと。

市の基本的な考え方とすると、地域ケアプラザを単位にしたいのでしょうか。必ずしもそうでもないですか。

(深川課長) それは地域によっても差があります。もちろん地域ケアプラザが連合町内会単位になったとしても、地域の核になる施設ということで、当然地域ケアプラザの職員さんには支援していただく形で進めています。日常生活圏域で見ますと、連合町内会が3つも4つも入るようなエリアがあったりして、それだと生活課題を解決するには大きいのではないかという議論もあります。連合町内会単位でつくっていただいているところが多いとは思いますが。

(黒津委員) それからもう一つ、資料1-①を見ると、先行区の区計画については昨年平成21年3月で大方固まりましたが、この先行区の計画策定を通しての問題点というのは、後発区にどういう形で引き継ぐのでしょうか。

(深川課長) 各区のさまざまな策定のノウハウは引き継いでいただきます。先行の7区に関しては、第1期計画のときも先行でしたが、いろいろ情報交換をしながら、第2期で全区、地区別計画をつくるというような流れにはなっています。7区それぞれのノウハウ、例えば団体とどういう形で意見交換をしたのかとか、アンケート調査を実施して行っているやり方などは、恐らく次の後発区の見本にはなっているかと思っています。

特に大きい課題というのは、こちらのほうでは詳細には把握していません。ただ、その辺の情報共有は、係長会などのいろいろな会議や研修会等を通じて我々のほうもさせていただいているというのが現状です。

(名和田副委員長) 港南区の名誉のために言うと、すべての地区で地区別計画ができておりますので、それは大丈夫かと。

(森本委員長) それぞれの委員の方がそれぞれの区のいろいろな計画にかかわっておられると思いますので、そういうところでまたノウハウなど出せるような機会があればいいかと思っています。

(2) 推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会(ヒント集)について

・事務局説明【資料2参照】

(森本委員長) それでは、ヒント集のことについて何かご意見・ご質問などございましたらお願いします。

(名和田副委員長) 分科会の長を務めましたので、補足的に申し上げたいと思います。と

いってもほとんど言うことはないのですが、この間の最後の分科会のときに、いろいろと意見が出ました。特に今、ご報告があったような論点に即して出まして、やや慌てたようなところがあります。でも、あそこまで分科会の委員の方々の創造力を刺激するような議論ができたことで、これだけの材料が集まって方向性が示されたので、私はむしろ、かなり完成に近づいたステップにいると感じました。

このヒント集は、実はほとんど予算がない中でつくっております。したがって、今年度予算を使い切らなければいけないとかそういう話ではないので、年度をまたいだところで大した問題ではありません。それなら分科会で出たご意見や、これから出であろうご意見を十分踏まえて、来年度6月くらいに確定するのでもよかろうという判断を事務局はされたのかなと思います。よって、これは基本的に歓迎されるべきことではないかと思えます。地域活動者に向けて非常に的が絞られた、本当に具体的に役に立つものをつくりたいというコンセプトでかなり固まりましたので、私としてはよいステップの踏み方をしていると受けとめております。

1点ちょっと、今になって気になったことがあります。資料2-⑤の2(3)について、私は除くと思えますが、分科会の委員が講師になって研修や説明を行うというのはなかなかよいアイデアで、もちろん皆さんにも行っていただきたいと思えます。けれども、その上に書いてある2(2)の活用に向けた取り組みで事務局が説明するというのは、何かこのヒント集のビビッドな具体性にそぐわないというか。地域で既に実践されている方とペアで説明とか、むしろ説明というより呼びかけとか、こういうふうはこのヒント集を読めばよくわかるでしょうとか、あなたもご経験があるでしょうといった、そういうイメージで行ったほうがいいのではないかと思ったところがあります。

このようなコンセプトでつくられていくであろうヒント集の活用の仕方、あるいは説明などの仕方につきまして、委員の方々のご意見等を伺えれば、もっと実り豊かになるかと思っているところでもあります。補足です。

(森本委員長) ありがとうございます。あとレイアウトなどでもご意見をいただければいいと思えますが、いかがでしょうか。

私から質問というか提案です。今、予算がないと聞いてしまったので提案しにくいのですが、リーフレットにしる、ヒント集、印刷物にしる、1回つくとそのまま流通するという格好になります。多分そのヒントは蓄積型で、いろいろな事例が集まって膨らんできて、それが随時見られるような形にすると。そういう意味では、社協か何かのホームページに、そのヒント集でこういう人材を集めたいとか、こういう集め方をしたいということで入っていくと、新しい何かノウハウみたいなものがたくさんたまっていく。そういう向上的な仕組みにしていくということが、すぐにできるかどうかはわかりませんが、少し検討する価値があるのではないかと感じました。多分、実際にこうやったらうまくいったというようなことがたまっていくのが大事なのではないかと思えますが、少しご検討いただければと思います。

(深川課長) 確かにこれで固めてこのままというよりは、いろいろなアイデアをもっと書き込めるというか、足していけるような仕組みみたいなものがあるといいと思えますので、それはまたこれから検討していきたいと思えます。

(森本委員長) 「親子でオリエンテーリング」とか言って市民を募集して、行ったらそこに車いすの子供がいる家族も一緒にいて、そのまま一緒にオリエンテーリングをしている間に、その車いすの子とお話ししてみたいな形で。だまして連れてくるということちょっと言い方が悪いですけども、そういうような企画をしている場面なども結構あります。

多分いろいろなことをいろいろなところでなさっていると思うので、その辺、拾えるような、もっと言えば、そういうことをアップしたい人はどんどん入れてくださいみたいなことまでできれば、おもしろいのかもしれません。

(名和田副委員長) その事例は自動的に落とし込めるわけではないのですが、落とし込み方がある程度定型化されているのであれば、どんどん事例が集まるごとに、これはエクセルからこの形に落とし込むわけですよ。だから、そもそも今の事務局の作業の仕方自体が、どんどんふえていくことに適したやり方をしてらっしゃるように思いました。

あと、インターネットからダウンロードできるようにしようというような意見もあったかと思います。違いましたか。

(深川課長) それはできるようにしたいと思います。

(名和田副委員長) そうしたらどんどんできると思います。

(森本委員長) 市のホームページに出すのがいいのかどうかはちょっとわかりませんが。

(深川課長) そうですね。リンクを張ればいいので、どちらに主体的に載せるか、社協さんのほうにするか、市のほうにするかはこれから検討させていただきます。そこも含めて次回またご相談させていただければと思います。

(中川委員) 大変よいと思います。ただ、今、委員長もおっしゃっていましたが、これはどんどん積み上がっていくものですし、お金のほうも余りないということなので、このリーフレットまですぐに落とす必要があるのかということに、私はちょっと疑問を感じます。まずこのヒント集を完璧につくられて、リーフレットはもう少し置いてからおつくりになられたほうが、より効果的なのではないかと思います。別に反対しているわけではありませんが、これからどんどん発展していくことですから。

(森本委員長) この分量の情報に対して、リーフレットで本当にうまくレイアウトできるかというのは、先ほどご説明いただいたとき同じように感じました。欲張り過ぎると小さくなって見にくくなるし、省略すると大事な情報が網羅できないのではないかと、何かそういう感じもしました。

(名和田副委員長) 私も分科会の際のニュアンスでは、分科会長がこういうことを言うのも何ですが、リーフレットについては何かまいち情報が定まりませんでした。つまり、まさにおっしゃったとおりで、これは地域活動者が使うものとして、必ずしも入門編ではないのです。そういうリーフレットとしてどうつくればいいのかというのはいま一つ、そこは事務局に期待という感じで終わったように思います。

どうぞ分科会の方、ほかに疑問点とかその他の点で、積極的にご発言いただければと思います。ちょっと今の話と違いますけれども、リーフレットではこうなっていて、こちらでは「新たな担い手を見つける」というほうの丸が小さくて、かつ後ろ、背景のほうにあります。このバランスでいいのかなと、逆ではないのかなという気もしま

す。あと、自分がこれを使って仲間こういうヒントがあるよと話したりするときに、  
どういうふうを使うというイメージでいらっしゃるか、ぜひ分科会の委員を中心に少  
しお知恵をいただければと思うところです。

(中野委員) 私たち分科会も確かに迷ったというか、ヒント集とリーフレットの役割をど  
のように分けて持たせるかというところで、やりたい人に導入部でこのリーフレット  
を渡して、深く知りたい人に限定というか、たくさん刷れないとしたら、こちらのヒ  
ント集を渡そうかという話が出ました。確かにもう既に活動している人が対象で、何  
か始めたいと思ってふらっと来た人を対象としないのなら、リーフレットはどうで  
しょうか。何か重なるような、うまく生かして使っていただけないかもしれないとい  
うおそれを感じました。

(森本委員長) 印刷部数としては、冊子はどのくらいできるのですか。

(鳥居係長) リーフレットは、紙質にもよりますが大体1万部くらい、冊子は1000部とか  
で考えています。手刷りであれば幾らでも刷れるのですが、基本的にホームページで  
ダウンロードできるようにするので、そのようなイメージです。だから刷ろうと思え  
ば幾らでも刷れるかなと思います。

確かに分科会の中でも、こういう冊子がありますよというお知らせみたいなもの、  
チラシでもいいのではないかというご意見と、もう一つ、そうは言いつつもやはり目  
に見るときには、この冊子がぼんとあるだけではなかなか見ようかなと思えないの  
で、少しコンパクトにまとめたもので関心を引いて、それからこちらのほうに入れれ  
ばいいというご意見もありました。

事務局のほうで持ち帰ってもう一回検討してみたのですが、やはりチラシだけで、  
こういうのがありますからというだけだとちょっと弱いかなというのもありました。  
それでリーフレットの内容も少し工夫をしながら、できる限りコンパクトに、わかり  
やすいものを中心にピックアップをして、そこからうまく冊子のほうにつなげられる  
ように工夫はしていきたいと考えているところでございます。

(森本委員長) リーフレットで解決するくらいの悩みだったら大したことないのではない  
かなという感じもしないではないですね。本当に困っていたら、きちんと16ページ読  
むだろうという気もしないではありませんが、何のどこに困っているかがうまくリー  
フレットで満遍なく拾えるかというのがあります。

(鳥居係長) 満遍なくというとなかなか難しいとは思いますが。ただ、この話をする中で、  
「自分はこういうヒントでよかれと思ったけれども、こういう違った視点もあるん  
だ」というような話をされた方もいらっしゃいました。実はそのいろいろな視点があ  
ってよくて、「そういうものもあると気づくのも結構大切かもね」というような話を  
されて、私も「そうか、そういう視点もあるんだな」と聞きました。

そういう意味でいうと、細かくはリーフレットの中にも載せられないかもしれませ  
ん。ただ、こういうものもあるんだと気づいてもらえるようなことを中心に掲載して、  
そこからうまく冊子のほうに手が伸びるような工夫というのを少し事務局で検討さ  
せていただきたいと思いますので、持ち帰らせていただいて、4月下旬にまた皆様方  
のほうにお示ししてご意見をいただくというのはいかがでしょうか。

(森本委員長) 非常に強く、リーフレットは絶対に要らないとか絶対要るとかという方がい

らっしゃればまた別なのですが。またその方向性を、分科会長の名和田先生と私も含めて事務局と少し検討させてもらってお知らせするみたいなことで、今、鳥居さんがおっしゃったようです。よろしければリーフレットと冊子の扱いについてはそのような形にしたいと思います。

あと、そのほかのこと、レイアウトや内容などで何かございますか。

(富井委員) 資料2-⑤の2(2)アとイなのですが、活動者向けと支援者向けに、同時に活用してくださいというようなことを説明していくようなイメージに見えます。ですが、例えば支援者向けに対して研修を行うのであれば、そのヒント集を活動者が活用できるようにするための研修とか、そういう順序立てたやり方でないと。同時に漫然と配って「どうぞ使ってください」と言われても、例えば地区社協の皆さんが、ではどうやって使うのだろうと見るだけで終わりなのかとなってしまうと、もったいないです。

どちらかという、最初にその支援者向けに内容を理解した上でそれを活用してもらい、導き出すための何か手法みたいな研修が繰り返し行われて、その後に活動者に配付して研修しながら取り入れたりしてというようなやり方が有効かなと思います。説明の中ではなかったのですが、その辺はどうなのでしょう。

(深川課長) そのあたりのやり方は多分おっしゃるとおりかと思っております。具体的にどんな研修をなどというのはまだできていないので、その活用に関してはまた社協さんとも調整させていただきながら、具体的にどういうやり方でやるかとか、どういう研修が有効なのかを、これからもう一回検討させていただければと思います。

(森本委員長) 今、富井さんがおっしゃったとおりで、往々にしてこの「支援者」と書いてある人のほうが実は余りよくわかってなくて、活動者のほうはさんざん手を尽くしていろいろなことをしてということがあります。ですので、何かトップダウン的にこういうのをつくったから使えみたいな形で渡すよりも、支援者がそれを使って何ができるのかというようなことがわかるような研修をしないと。

ずっとやっておられる支援者の方ももちろんいらっしゃるわけですが、特に役所の異動されてきた方などは、そのしんどさとか、人の集め方の難しさみたいなのは余りよくわからないで、支援者としてそのパンフレットをどう使うかみたいなのは、なかなか戸惑うところがあるのかと思います。

(深川課長) そうですね、はい。具体的に配るだけではなくということころは、きちんと実施していければと思います。

(石塚委員) 地域ケアプラザの中で考えると、多分これを使うのは、地域交流のコーディネーターとかそのあたりの方だろうと思います。地域ケアプラザだったら支えあい連絡会の中にボランティアのグループ分科会があつたりしますが、そういう方たちに向けた、コーディネーターが使えるみたいなイメージで考えていました。そういう研修みたいなものを取り入れていただいたり、コーディネーターの連絡会が各区にあると思うので、そういうところでも少し時間をとってしっかり説明していただいたりするといいのかなと思います。

(深川課長) 説明するだけではなくて、どういうやり方で行えば活用ができるのかを一緒に考える研修なども多分有効かもしれません。何かそういう具体的なイメージを出し

ていただければと思います。

(石塚委員) ボランティアグループの分科会などでこれを使って話をしたときに、多分またいろいろな意見が出てくると思います。それもまたフィードバックできる場所があるといいと思います。

(森本委員長) ほかに何か。山田さんはレイアウトとかは結構こだわるほうではないですか。そんなことはないですか。

(山田委員) ヒアリングもたくさん参加させていただいて、子育てだったり、高齢だったり、障害だったり、地域の活動でいろいろな分野のいろいろな生の声が詰まっているのがこの16枚です。ここまで凝縮するだけでも本当に大変だったと思います。

やはり分野は違っても共通点は「人」というところがあるので、せっかくできた冊子をうまく伝えられるように、中野委員がおっしゃったそのリーフレットの役割と冊子の役割をどういうふうにしていくか。それと、リーフレットはどのようなところに置いたら効果的かというのも、ぜひ皆さんのご意見をいただきたいと思います。あと、活動者は常に課題を持っていますが、支援者ならではの課題もあると思うので、支援者や地域ケアプラザのコーディネーターがどのようなことに今困っているのか、それも拾い上げながら一緒に生かし切れる冊子になるといいと思います。この16ページに限らず、もっといいお話があるようだったら、ぜひ積み重ねていきたいと思います。

(森本委員長) こういうものがどこかホームページ上に載っていて、自分のところはここを使ってうまくいったみたいなのがポイントになっていて、そのヒントを出した人にまたポイントがつくとか、何かそういう雪だるまのようになっていくのがおもしろいと思います。よくありますよね。最も役に立ったみたいな、星がついているとか、ベストアンサーみたいな。

(深川課長) 何か楽しそうですね。逆にここを使ってこんなふうに活用できたよみたいなことが書き込めるようなものができるといいですね。

(森本委員長) それがまた集まってくるような。

(平賀委員) そういうのはフィードバックができるといいですね。

(深川課長) そういうフィードバックができるような仕組みも何かできるといいと思います。ちょっとアイデアとして。

(中野委員) 相互性だと思います。支援しているつもりが実は支援されていて、されているはずだったのですが、それが支援にもなっていてという、そういう相互性が大きく膨らむといいと思います。

(森本委員長) それはどうも6月にしても完成版でぼんとあるということではなさそうな状況になってきています。ペーパー媒体では一応6月で区切りとするにしても、その後の展開をいろいろ見据えながら少し考えていくということで。当然そういう意味では、中身の具体的なエピソードなども新たに加わったり高度化したりできる余地を残しながら進めていくということによろしいですか。ありがとうございます。

## 報 告

(1) 推進の柱2「必要な人に的確に届く仕組みをつくる」「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の結果について

・事務局説明【資料3参照】

(森本委員長) それでは、ネットワークのあり方についてのご質問やご意見、あるいは来年度の進め方や内容についてのご指摘などあればいただきたいと思います。

私が聞くのも変ですが、公的機関向け業務支援を来年度つくるという、その作業自体はこの委員会の作業ではないと考えていいわけですね。

(深川課長) その取組を具体的にどうやっていくか、まだちょっと具体的にはなっていないのですが、この委員会とは別のところで行いたいと考えております。

(黒津委員) 報告書の13ページを見ていただきたいと思います。最初に私が申し上げたように、地域というのはあくまでも自治会・町内会がベースになっているわけですね。その上に連合町内会があって、その上に地域ケアプラザ、何層かわからないけれども、そういう考えなのですか。

(戸矢崎係長) これについては計画の推進の進め方というところをベースに考えています。

(森本委員長) 今動いている計画自体がこの6層の考え方です。

(黒津委員) 6層の考え方ですね。地域によっては地域ケアプラザのエリアと重ならないところがあるのでしょうか。

(深川課長) 連合町内会単位になっていないということです。

(黒津委員) その場合のネットワークづくりはどうするのですか。

(深川課長) そういう場合でも、地域ケアプラザのかかわり方に関しては、区によっていろいろやり方は違うかもしれないですけども、主体的にどういう形でその連合にかかわるか。個別性に関しては担当のエリアがきちんと決まっていますので、担当の地域ケアプラザがそれぞれネットワークづくりにかかわっていると思っています。

(黒津委員) それからもう一つ。地域ケアプラザの中でも、例えば対応の仕方とかで考え方や意識の差はないのでしょうか。それがあると、上のほうではわかっているけれども、現場のほうでは全くばらばらになる可能性があります。

(深川課長) ご指摘いろいろあるかと思いますが、できるだけ地域ケアプラザによって差が出ないように、我々のほうとしても区を通じて、もちろん市もそうですけれども、当然支援はしていきます。

(中村委員) 先ほど研修とおっしゃっていましたが、現場でいろいろかかわっている私は民生委員なのですが、「何のためにこの事業をなさるのですか」と伺っても、はっきりお答えいただけないケースが結構あります。地域ケアプラザの場合は特に福祉系の専門職の方が多くて、そのお仕事だけでも大変かと思います。そういう方たちが、これを見たらすばらしいなどは思うのですが、ぱっと見た感想で実践できるのかなと思ってしまったくらいです。

(深川課長) 今回この検討会の中では、現状もある程度は踏まえてはいるのですが、これから先を見据えてどうあるべきかというところも、この中に要素としてたくさん入っています。ですから、これをどう実現していくかというのは、やはりこれからの取組だと思いますので、本当に今、現状の地域ケアプラザでこのままオンしてできるかというのは、それはなかなか厳しいところもあるかと思います。そのあたりはこれからの整理の中で具体化できるところはできるだけ一緒に、地域ケアプラザの皆さんと考



えながら具体化していくイメージかと思います。

(中村委員) そうですね。本当に関係者同士いろいろ話し合っってネットワークをつくっていくということをしないと、きついかなど。もちろん黒津さんがおっしゃったように、地域が分かれているところもたくさんあって、それで分断されてしまっているところもあるので。

(深川課長) わかりました。ありがとうございます。

(山田委員) 高齢分野以外のところでお話をさせていただきます。今、私は子育て支援拠点を運営しているので、子育ての分野はどうしようというお話をすべての地域ケアプラザとさせていただきます。地域ケアプラザと支援拠点は課題のある当事者を目の前にしているのでつながることはできても、行政が入ってきたときにうまく伝わらないという事例があります。

行政が縦割りなので、こども家庭支援課のところ滞ってしまった事例や、障害など複数の困難な課題を幾つも抱えている親御さんもいますので、縦割りでなく、その親子を目の前にしたときにどう動いたらいいかと。現場の人間は動いても、行政と一緒にになると、とても難しかったり、情報がきちんと回っていなかったりというのは、本当に現場でたくさん出ているところです。地域ケアプラザの職員さんも、子育ての分野のことで困っているのが現状だと感じています。ですので、動きやすいように業務指針などをつくっていただけるようでしたら、ぜひお願いしたいと思います。

(深川課長) そうですね。今、多々指摘があったのは、実は地域ケアプラザの問題でも、区にあるいろいろな施設の問題ではなくて、多分、区役所の内部に大きな問題があるのかなと思っています。本当に今、現状では福祉保健センターの体制がすべて縦に分けられ、それぞれの支援が担当ごとという中で、どう区の内部を横につなぐかというのは非常に課題で、そこは我々が意識しなければいけないところでもあると思っています。このあたりもできるだけ業務指針の中で、区としての役割であるとか、区としての内部連携をどうしていくかということところは大きな課題と認識しておりますので、検討していきたいと思っています。

(山野上委員) 今、子育ての話が出たのですが、障害の分野でもやはり同じことが言えます。特に障害児を抱える家庭では地域とのつながりがほとんどない状態で、児相にしても療育センターにしても市内に4カ所といった数で動いていて、なかなか地域に行けません。

障害児の問題というのは家庭そのものの話なので、今、通学の支援をしているのですが、家庭の問題で学校に行けないお子さんがとても多いです。今、障害福祉課のほうでガイドボランティア事業という外出支援事業があるのですが、未就学児については子育ての問題だからとか、家庭の問題なのでということで支援ができません。やはり今おっしゃった縦割りの問題であると思います。

そういったところのつながりというような支援を全方向から支えていく仕組みづくり、区まで広げてさらに全市域の連携のとり方、情報の流し方とか、個人情報の問題など難しいとは思いますが、市民の方は障害者は別というイメージが強いと思いますので、障害ということも大きく書いていただけるといいと思います。

(深川課長) 確かに障害の分野は、地域の皆さんからもかかわり方がなかなか難しいとか、

どういふ部分に入っていったらいいかというふうなお話もあるかと思ひます。障害の分野に関しては、区域の中で自立支援協議会という形で立ち上げをして、いろいろな話し合いがようやく始まりました。それをどうやって地域の中に根差していくかという第一歩を踏み出したところですよ。

そこもネットワークですから、いろいろなネットワークをどう重ねていくか、それをどう地域の中で、もう少し地域に近いところでまたネットワークができるかというの、いろいろな分野で考えていかなければいけないかと思ひます。

(平賀委員) この議題から少し外れるかもしれませんが、理想的にはいろいろ今出ている個々の話はわかります。それが行政側に伝わったり話をさせていただいたりすると、縦割りということで非常に今、皆さん方は苦勞なさいます。

私もそうですけれども、ベテランの区社協や区役所など、いろいろなところの職員さんがおられると思ひますが、先行きはワンストップコーディネーターというふうな考え方で、一つのそういう形にエネルギーを集約して行って、そこでとめて話をいろいろ聞いて、それから中で枝葉を分けて検討して、またそこへ帰ってくるというふうなことが今後できればいいのではないかと。

今すぐできる問題ではないと思ひますが、先行きそういうことを役所の中でも区社協の中でも考えていけば、こういう我々がしていることも、もう少し具体的に解決方法が見つかるのではないかと。具体的にこういうことというのは私も考えていませんけれども、そういう考え方を基本に持っていて、時間がかかっても年数がかかってもやはりお互いに努力していくこと、ワンストップが一番効率がいいだろうと思ひますので、ぜひその辺は先行き考えてみてください。ちょっと理想論で済みません。

(森本委員長) ありがとうございます。ワンストップは実は大変難しいので、それは市なり社協のほうでよく考えていただくということで。ここでその話を出すともた長くなってしまうので。

いずれにせよ、今日出てきている報告書の部分が、実際にそれぞれの地域で地域福祉計画を推進していく上で、どういう形で再編されていくかということですよ。ネットワークが今、現実にはあるけれども、形骸化しているとか、集まりのための集まりになっているというふうなところがいろいろ指摘されています。

ただ、地域ケアプラザのコーディネーターの方から、うちではこういうことをしているという報告を幾つか伺って、相当いろいろな展開がされてきているということも事実であります。ですので、そういうのがまた広がって行って、先ほど言っておられた子供とか、障害者児とか、どうしても高齢にフォーカスされているような部分が、それぞれ事例としては打ち破っていているようなものもあります。何かそういうのがうまく流通していくといいと思ひました。

やはりコーディネーターさんがそういう目線を持っているかどうかというのはすごく大きいので、そのあたりも先ほどのヒント集ではないですが、支援者側のほうのネットワークについてどう見るかみたいな研修もそこに含めていくとか、そういうことがあってもいいのかなという気はしました。

(名和田副委員長) この報告はある意味、私は衝撃的な印象だったのですが、いろいろ危惧はあると思ひます。黒津委員がおっしゃった地域ケアプラザの範囲と、民間の地域

組織の範囲が分割していないとかですね。それから、高齢分野以外の地域ケアプラザの役割と受け入れについて改めて整理すると非常に的確な問題提起で、これに関するご発言もあって、実に的確な部分を皆さん問題視されたと思います。それと、区役所職員による協働の市政のあり方とかですね。いろいろ危惧とか理想論ではないとか感想はあるかと思いますが、地域ケアプラザについてこういう構想が出されて、この方向で充実させていこうという方向性が出されたのは、非常に大きなことだと感じます。

第1期の地域福祉計画のときは、森本先生もご一緒でしたけれども、地域ケアプラザの位置づけとか、支えあいネットワークと連合町内会との関係などが未解明のまま過ぎてしまったような気がしています。ところが第2期になって、社協はもちろんですけれども、地域ケアプラザという公設民営組織の重要性がクローズアップされてきて、非常にすばらしいと思っていました。さらにそれをステップアップさせるためにこういう検討が行われたのは画期的なことではないかと受けとめております。期待が大きいので、ぜひ市役所にも頑張ってもらいたいと思います。

(中村委員) 先ほどの障害の具体例ですが、障害者の方たちの理解を得るということで、地域ケアプラザから話がありました。住民の方たちや地域にどうしたら理解していただけるかということでしたので、まず防災拠点の会議にそれを提案しました。そして自立支援協会の方に来ていただいて、実際に発災したときに障害者の方がどのような行動をとってしまうかというのを、劇仕立てで見せていただきました。

防災拠点の運営委員さんはある程度理解があるのですが、一般の住民の方には、例えばトイレに並ぶときも障害者の方はずっと並んで待ってられなくてこういう行動をとるから、住民の方はそこでしつけが悪いとか、何で並んでないのかとか言わないで温かい目で見たいとか、そういうことを理解していただきました。参加された住民の方からはすごい研修会だったということでしたので、来年防災拠点の役員さんはわかりますので、またこのような研修をして徐々に広げていこうということになりました。

最初の取っかかりで地域ケアプラザから話が来たときに、では私がその話を防災拠点のほうに持ち出すので、これはどこからの話なんですかと聞いたら、最初は社協だとおっしゃるので社協に行ったら、「いや、それは防災ボランティアネットワークだ」とかで区と社協の間を行ったり来たりしました。結果的に自立支援協会の方のところにとどり着いて、どこが主催で実施するのかという点でもうまく回らなかったのです。

そこは私が、もちろん住民のネットワークの一員だったら動かなければいけないのですが、関係者で上手につないでいただいたらもっとスムーズに運んだのではないかとこのころがあったので、ネットワークができていけばうまくいけたのかもしれないという気はしました。地域ケアプラザにそういうところの事務局的な機能も期待はしたのですが。

(森本委員長) 本来、そういうのを持っていなければいけないですね。

(中村委員) 結果はよかったのですが、結構行ったり来たりしてしまったので。

(森本委員長) 名和田先生の期待も含めて、これからそういうことはスムーズにいくよう

に、そのために検討したわけですから。

(2) 地域活動者のための個人情報の手引きについて

・事務局説明【資料4参照】

(森本委員長) 昨年度、実施していた検討会があって、それで今年度、手引きをつくる検討会というのはこの委員はだれも入っていないで、市と市社協で行っているわけですね。資料として「素案」というふうに出ている、先ほどのネットワークも「案」と出ているのですが、案を取る決定をする場というのは、ここでいいのでしょうか。

(鳥居係長) これは報告事項なので、最終的な決定は市社協と健康福祉局のほうで行いまして、最終決定版につきましては、また6月のときに行おうと思っています。

(森本委員長) そういうことだそうです。ヒント集は分科会なので、ここで決定できるわけですね。そのネットワークの検討会の資料、情報の検討会のこういう冊子のようなものは、ここで決定するわけではなくて、最終的にはそれぞれのもとで決定するという理解でいいですか。ということは、ここではいろいろ提案なりしていただければいいということですね。

それからこれは個別の話で、素案をメール添付で送っていただいたときから、これは変わっていますか。

(鳥居係長) メールで送ってから多少は変わっていますが、大きなところの変更はございません。

(森本委員長) そうですか。メールでいただいたときに気がつかなかったのでしょうか。

資料4-②の見開きの一番左上の花びらで囲まれているところですが、「個人情報、保護の重要性を理解し、適切に取り扱うことが大切です」というのは、私はあまり気に入りません。それで真ん中のところに、横浜市の個人情報の保護条例が書いてあるのですが、国の個人情報保護法にはそんなことは書いてなくて、保護が重要だというのは書いていません。個人情報というのは個人の権利利益を保護するために大事だと書いてあるわけで、個人情報を保護しなければいけないとは書いていません。

だから、こういう書き方をすると保護が重要だという話にしかならないのですが、個人情報が重要だということは事実です。それは、うまく使うという点でも重要だという意味です。そういう意味では、もし可能ならば「個人情報の重要性を理解し」というふうにしていただけたほうがいいです。前提として「保護が重要だ」としてしまうと、ただただ守ってしまうほうにいくのかなという気がします。それが市の個人情報保護条例ではそのように書いてあるので、それで曲げられないというのであればそんなに強くは言いませんが、読点と「保護」というのを取ったほうがいいのかと、個人的には意見としてあります。

(深川課長) 市民情報室とも調整させていただきますが、基本的な考え方は今、先生がおっしゃったとおりだと思っています。個人情報を有効に安全の中でどう活用するかというスタンスは変わらないと思いますので、そこについては検討させていただきます。

(3) 横浜市地域福祉保健計画（市社会福祉協議会）について

・事務局説明【資料5参照】

(森本委員長) 今、ご説明いただいた件で何かございましたら。

	<p>(黒津委員) この1「地区ボランティアセンターモデル設置事業」の舞岡、若葉台、荇田西、この3カ所の拠点はどうなところですか。</p> <p>(稲葉部長) これは、地区社協単位で設ける地区ボランティアセンターになりまして、舞岡の場合は地区で一戸建て住宅団地内の空き家を借り上げて、そこを拠点にしております。若葉台については県公社の分譲団地、マンションなのですが、その中のバスターミナルに隣接する空き店舗を借りるという形になります。荇田西は、先ほども言いましたが1階にスーパーが入っていて、上がワンルームマンションになっている1室をやはり借り上げる形で拠点にしております。</p> <p>(黒津委員) これから拠点を広げる上での問題というのが恐らく出てくるでしょうね。</p> <p>(森本委員長) ボランティアセンターとしてそこを拠点にするということですね。</p> <p>(稲葉部長) ご指摘の趣旨は、これを持続的に進めていくためには家賃負担とか光熱費負担とか、運営費が大変だということだろうと思います。そういうことで、今回は空き家がたまたま発生したというところを安く借りているとか、税金相当分しか出していないとか、団地内だと今後URや公団などの空き店舗などをどういう形で安く貸してもらえるかとか、そのようなことを社協などと一緒に考えながら、自治体が自前で借りているということはあると思いますが、モデル運営なので、今後この拠点型を各地域に広めていくには、そういう課題を社協の中で検討するとか働きかけることは必要だと思います。その辺については、活動計画の4年間の中で取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>(森本委員長) これは住民の方がコーディネートをするという感じなので、その研修のようなものはきちんとしていただいているのでしょうか。</p> <p>(富井委員) コーディネーターは身近な地域の住民の方々から、ボランティア活動とかそういう経験のある人を募って、最初の段階でコーディネーターの研修は基本的なことを学習してもらいます。それで軌道に乗るまでの間は、社協の職員、市の社協の職員、区の社協の職員もコーディネーターに付き添ってフォローしているというか、支援している形です。</p> <p>(森本委員長) いきなり突き放したら大変なことになる可能性があるのでは。</p> <p>(富井委員) はい。これは今、拠点型を強調したモデルで行っているのですが、実際、地区社協の中にボランティア機能を持って、選択機能を持って実施しているところはたくさんあります。それを拠点にやっていけるかどうかと、黒須委員が拠点は難しいのではないかとおっしゃるとおり大変ハードルの高いモデルですので、それを254の地区にすべて反映していくかどうかということも検証しながら進めているところです。</p> <p>その他</p> <p>(森本委員長) その他、事務局のほうから何かございますでしょうか。</p> <p>(深川課長) 特にございませぬ。</p> <p>閉 会</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>資料1-① 第2期区地域福祉保健計画の策定推進状況（各区スケジュール）</p> <p>資料1-② 平成22年度 横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組状況</p> <p>資料1-②追加 平成23年度 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会の主な議題（予定）</p>

<p>資料2-① 第2回分科会からのヒント集作成作業経過について</p> <p>資料2-別添 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」と「ヒント集 冊子 様式案」 「ヒント集 リーフレット 様式案」の関係</p> <p>資料2-② ヒント集 冊子 掲載内容一覧</p> <p>資料2-③ ヒント集 冊子 様式案</p> <p>資料2-④ ヒント集 リーフレット 様式案</p> <p>資料2-⑤ ヒント集に関する今後のスケジュールと活用について（案）</p> <p>資料3 推進の柱2「必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる」「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の結果について（報告）</p> <p>資料4-① 「地域活動者のための個人情報の手引き」について</p> <p>資料4-② 地域活動者のための個人情報の手引き（素案）</p> <p>資料5 第4次地域福祉活動計画 リーディング事業進捗報告</p> <p>（当日配布資料）</p> <p>第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会委員名簿</p> <p>地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会報告書（案）</p>
---